



Title	繊維補強コンクリートの基本特性と道路橋RC床版への適用に関する研究
Author(s)	水越, 瞳視
Citation	大阪大学, 2002, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/43408
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed 大阪大学の博士論文について

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名	水越睦 視
博士の専攻分野の名称	博士(工学)
学位記番号	第17076号
学位授与年月日	平成14年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 工学研究科土木工学専攻
学位論文名	繊維補強コンクリートの基本特性と道路橋RC床版への適用に関する研究
論文審査委員	(主査) 教授 松井 繁之
	(副査) 教授 松井 保 教授 西村 宣男 教授 森 康男 教授 中辻 啓二 教授 出口 一郎 教授 堀川 浩甫 教授 大野 義照

論文内容の要旨

第1章の序論では、本研究の背景と目的を述べ、道路橋RC床版の耐久性向上のために繊維補強コンクリートを活用する意義とその材料特性を明らかにし、設計法を提案する目的を明確にした。

第2章では、繊維補強コンクリート(FRC)の種類と特徴、道路橋RC床版の疲労損傷機構と設計法および補強に関する既往の研究を整理し、技術の現状とFRCを床版に適用する際の検討課題を抽出した。

第3章では、高い耐久性が期待できる炭素繊維補強コンクリート(CFRC)の構造部材への用途展開を図ることを目的として、CFの最適化の研究を進めた。フレッシュ特性について鋼繊維補強コンクリート(SFRC)と普通コンクリート(PL)との比較で述べ、CFRCの配合設計法も明確にした。

第4章では、炭素繊維を用いた硬化コンクリート試験を実施し、荷重作用に対して補強効果を発揮し得るCFのフィラメント数および集束度の最適範囲を検討した。次に、最適CFを用いたCFRCの各種力学特性について、SFRC、PLとの比較実験を行い、開発したCFRCの静的力学特性を明らかにした。

第5章では、SFRC、CFRCの曲げ疲労特性をPLとの比較実験により明らかにし、ひび割れ進展に着目した疲労寿命評価方法を検討し、ひび割れ進展を考慮したS-N曲線を提案した。

第6章では、SFRC、CFRCの凍結融解抵抗性、乾燥収縮、屋外暴露による長期性状など各種環境耐久性に関する検討を行い、両者の高耐久性について検証した。

第7章では、SFRC、CFRCの床版上面増厚工法への適用性を検討した。実施工と同様の方法で作製した増厚床版について輪荷重走行疲労試験を行い、増厚しない普通RC床版と増厚後の増厚床版との疲労耐久性比較、さらに増厚部コンクリートの違いの疲労特性に及ぼす影響を検討した。既設部と増厚部の付着試験を行い新旧コンクリートの一体化も検討した。また、上面増厚床版の負曲げモーメント領域における適用性を検証するため、RCはり供試体の定点曲げ疲労試験を行い、これらの結果に対して第5章で得たFRCの曲げ疲労寿命評価方法を適用し、増厚RC部材の設計用S-N曲線を提案した。

第8章では、床版の全厚に鋼繊維補強軽量コンクリート(SFLC)を使用したSFLC床版について、主に鉄筋量を要因に輪荷重走行試験を実施し、SFLC床版の適用性と鉄筋量低減の可能性について検討し、その量を提案した。

第9章では、前章までの検討結果を用いて、SFRC、CFRC、SFLCの耐久性向上を目的として道路橋RC床版に適用する際の合理的な設計方法を提案した。繊維補強コンクリートを用いた道路橋床版の設計概念を述べ、対象橋梁

をモデルに疲労設計手法を示した。

第10章では、全体の研究成果を総括するとともに今後の課題を整理した。

論文審査の結果の要旨

床版の耐久性向上は橋梁の長寿命化に繋がり、その有効な方法の一つとして、床版コンクリートを繊維補強コンクリート (FRC) とすることが考えられる。本論文では、既存の鋼纖維は勿論であるが、新しく炭素纖維を床版用に開発し、それらを補強コンクリートに使用できることを検証し、特に損傷を受けた床版の補強方法としての上面増厚工法への適用のための耐久性について詳細な検討を行っている。また、人工軽量骨材コンクリートを鋼纖維で補強したコンクリート (SFLC) を床版に適用するために、疲労耐久性について検討を行っている。そして、繊維補強コンクリート床版の疲労を考慮した合理的な設計法を提案している。得られた主な研究成果は以下のように要約できる。

- (1)コンクリート用に短纖維の炭素纖維をフィラメントを集束して創ることを考え、最適なものを見出し、鋼纖維と同等以上の静的力学性能を有する CFRC の配合設計法を提案している。
- (2)負モーメントを受ける領域での繊維コンクリートの疲労設計を可能にするための疲労実験データを収集し、ひび割れ進展を考慮した疲労寿命曲線を提示している。CFRC、SFRC は普通コンクリート (PL) に比べ優れた疲労抵抗性を有していること、その疲労強度の向上率は纖維の種類と混入量の影響を受けることを定量的に明確にしている。また、繊維コンクリートの疲労限を提案している。
- (3)CFRC、SFRC の凍害、塩害、中性化、硫酸塩による浸食等に対する環境耐久性について有用なデータを得て、繊維コンクリートの過酷環境に対する耐久性を評価している。
- (4)SFRC、CFRC の床版上面増厚工法への優れた適用性について、実物大床版による輪荷重走行試験機による疲労耐久性で定量的に明らかにしている。また、負モーメントを受ける領域に対する設計のための S-N 曲線を提案している。
- (5)床版全厚に鋼纖維補強軽量コンクリート (SFLC) を使用した場合、普通コンクリートを用いた場合と同等の疲労耐久性を確保するには、鉄筋量を通常のものの 75% に低減できることを示している。
- (6)FRC を耐久性向上の目的で道路橋 RC 床版の上面増厚工法に使用した場合の設計法を示し、床版支間に応じた最適増厚量決定のための上限応力比を提案している。

以上のように、本論文は、繊維補強コンクリートに関する新しい開発と疲労に関する有用なデータを得ており、これらを基に繊維補強コンクリートの道路橋 RC 床版への適用に際しての疲労設計を可能にするものである。本研究で得た成果は道路橋床版のみならず広範囲のコンクリート構造に応用できるものであり、橋梁工学、コンクリート工学の発展に寄与するところが大きい。よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。